資料２

現行制度の成果と課題

※朱書きは第３回研究協議会後に追記した部分

１ 現行制度をめぐる状況

現行制度は、平成２７年度入学者選抜から実施され、令和９年度入学者選抜で１３年目を迎えた。

この間、県教育委員会では、毎年入学者選抜終了後、中学校及び高校関係者の意見をもとに、現行制度の実施上の諸課題について改善を図ってきた。

このような中、少子化に伴う入学者選抜志願者数の減少、部活動の地域展開、不登校児童生徒及び日本語指導が必要な児童生徒の増加や学習指導要領の改訂など、学校教育を取り巻く状況は大きく変化している。

また、令和８年４月、入学者選抜制度について生徒・保護者に対するアンケート調査を実施したところ、一般選抜と特色化選抜を一本化した現行制度に対する肯定的な意見がある一方、特色化選抜において生徒の多様な資質・能力を適切に見取ることや選抜日程等について、改善を要望する意見等も見られた。

２ 成果と課題

本研究協議会では、現行制度をめぐる状況を踏まえ、現行制度に関する成果と課題について、選抜制度（一般選抜・特色化選抜の在り方等）、学力検査・調査書、受検機会・選抜日程という３つの観点から協議を行い、その結果を次のとおりまとめた。

（１）選抜制度（一般選抜・特色化選抜の在り方等）

	成　果	課　題
制度全体	○一般選抜と特色化選抜を一本化した選抜制度により、受検生は１回の出願で入学者選抜の受検が可能となっていることについて、受検生や保護者から概ね適切であるとの評価が得られている。 ○「求める生徒像・選抜方法等一覧」により、各高等学校の評価基準が事前に示されていることについて、一定の理解が得られている。	○一般選抜と特色化選抜のどちらの選抜枠で合格したか分からないため、受検生や保護者から不透明であるとの指摘がある。 ○「求める生徒像・選抜方法等一覧」が事前に示されているものの、十分に理解されていないとの指摘がある。
特色化選抜	○学力だけでなく、部活動、地域クラブ活動、特別活動、意欲や適性など、受検生の多様な資質・能力の多面的な評価や、学校の特色に応じた選抜が可能となっている。	○部活動の地域展開が進む中で、部活動や地域クラブ活動の実績等を点数化することについて、公平性を疑問視する意見が挙げられている。 ○生徒の多様な資質・能力を、中学校等が適切に見取ることや、高等学校が公平に評価することの難しさが指摘されている。
多様な背景を持つ生徒への対応	○多様な背景を持つ生徒に対して、合理的な配慮のもとで、適切に選抜が実施されている。	○日本語支援が必要な生徒のために、一部の高等学校に特別な定員枠を設置するなど、選抜方法の改善が必要であるとの意見が挙げられている。 ○次期学習指導要領に向けて、不登校生徒等への対応において、改善の余地があるとの指摘がある。

（２）学力検査・調査書

	成　果	課　題
学力検査	○学習指導要領に基づき、知識の量や程度に偏ることなく、記述式問題を多く取り入れるなど、思考力等を問う出題となっており、学力検査問題として適切であるとの評価が得られている。	○国語の放送による検査について、「聞くこと」の力を見取るために必要であるという意見がある一方で、記憶力を測るだけの出題となっているのではないかとの指摘がある。
調査書	○当日の学力検査だけでは見取ることができない中学校３年間の生徒の努力や、優れている点等を多面的に評価するための選抜資料として、適切に活用されている。	○在籍する学校における出席の状況のみをもって、選抜における生徒の不利益とはならないものの、「欠席の状況」欄が不登校生徒等にとって心理的負担になる懸念がある。 ○特色化選抜における部活動等の点数化について、公平性を疑問視する意見があるため、「部活動」欄の取扱いを検討するべきであるとの指摘がある。

（3）受検機会・選抜日程

	成　果	課　題
受検機会	○入学者選抜（追検査を含む）、再募集と、多段階による選抜により受検機会が適切に確保されており、生徒は安心して受検できるようになった。 ○一般選抜と特色化選抜を合わせた全募集人員を一括で募集する現行制度は、受検生にとって出願・受検回数が複数に及ばないように配慮されており、学校側にとっても事務負担が軽減されている。	○再募集の実施について、出願者数の減少が課題となっている。 ○複数回の出願・受検・選抜が受検生や学校側の負担となっていることから、併願制等の検討を望む意見が挙がっている。
選抜日程	○中学校等の授業時数の確保や、中学校等及び高等学校の学校行事の観点から、選抜日程は概ね妥当であるとの評価が得られている。	○３月に入学者選抜、追検査、再募集の最大３回の学力検査等を実施することや、再募集の日程が遅いことにより、次年度に向けた準備期間が確保できない状況にあり、高等学校の負担が大きくなっている。 ○保護者から、入学準備のために選抜日程を前倒しする意見が挙がっている一方で、中学校等における授業時数の確保や、受検後から高等学校入学までの学習意欲の維持に影響があるとの指摘がある。